

学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	・3月中にホームページにアップして、学校評価を公表する。
----------------------------	------------------------------

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	1 教育活動のさらなる充実による「信頼される学校づくり」について ① <b>「学校ホームページ」の更新</b> 回数だけでなく、アクセスの面からも、例えばカウンター数や、どこから何件のアクセスがあるのかなども分かれば指標になるのではないか。 また、「学校ホームページ」の他にも、SNSなどの広報ツールの利用も検討してみてもどうか。 ② 中学校訪問は、すでに多くの中学校に訪問しているようなので、これ以上の拡大は難しいのではないか。	① 生徒指導面で大きく改善されたことに加え、学力の定着と向上にも取り組んで、成果を上げていることを、どのように効果的に広報していくかが課題である ② 中学校訪問については、志願者確保に向けてのより効果的な訪問対象校の検討もしながら、今後も継続していく。また、学校説明会の運営の工夫や、中学生向けのPR動画の配布などもあわせて検討を続ける。 ③ 「開かれた学校づくり委員会」や地域の自治会、また地区青少年委員会等との連携を引き続き強化し、地域に開かれた学校を目指す。
	2 今後の計画の策定と段階的实施について ① 若い教員の意識も変容しているので、教員の育成と、働き方についての取り組みが具体的な方策になるのではないか。 ①② 現在のところ、学校、生徒、保護者で、Win Win の良好な関係で教育活動が行われていると捉えられる。これから先の方向性についてはどうか。	①② 長いスパンでは、教育課程の見直しなども視野に入れて考えていく。時期を焦らず、将来計画検討委員会を中心に、地域からの要望も踏まえてながら、より具体的な将来計画を策定し、実施する。
	3 不祥事を起こさない職場づくりについて ○ 不祥事については社会的にも関心が高いので、起きないようにどのような対策をしているのか、起きた時にどのような対策をすることを決めているのかを、具体化させておいた方がよい。 ○ 開かれた学校づくり委員会以外でも、第三者の目を入れることが必要ではないか。 ④ 教員の心身の健康について、メンタルヘルスについては具体的にどうか。産業医や第三者の弁護士や相談機関と連携することも必要ではないか。	①②④ 次年度も引き続き、各種面談、授業参観、校内巡視等を通じた、管理職と教職員及び教職員同士のコミュニケーションの活発化、具体的事例に基づいた法令遵守意識の涵養、教職員の心身の健康管理状況の把握、等の取り組みを継続して、不祥事を起こさない職場風土を醸成していく。 ③ 今年度も昨年度に引き続き、若手教員が自主的な研修の一環として、授業公開や研究授業などを企画し実施した。今後も、若手職員に当事者意識を植え付けた上で、職場全体の士気の向上を指導していきたい。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学習指導	<p>○ 十分な取り組みをしていただいている。「授業を大切にしている学校」という取り組みは良い。</p> <p>① 「学力が向上している」という評価は、生徒、保護者はほぼ横ばいなのに対し、教員の評価は大きく上がっている。教員の高い期待に生徒がついてこられないということはないか。このギャップをよく見極めて、今後の学力向上に関する指導の仕方を考えていかなければならないのではないか。</p> <p>① 高いレベルの学力に合わせていくことも必要だと思うが、生徒の多くがわからないのでは学力は伸びない。理解力の弱い生徒の補習などで、平均的に学力は上がるのではないか。</p> <p>④ 校長の授業観察（参観）が 150 回以上というのは、先生方にも緊張感があってよい。</p>	<p>① 少人数展開を活かしたきめ細かな指導によって「学びなおしができる授業」「わかる授業」を実践し、“学ぶことの楽しさ”に気付かせる。このことについての<b>生徒による授業アンケート</b>を行う。</p> <p>② 基礎学力定着のための調査研究事業の取り組みとも関連させながら、授業公開や<b>研究授業を実施</b>して指導内容及び指導方法を工夫・改善する。</p> <p>③ 上記調査研究事業の実践研究でも重視している「朝自習」のさらなる充実等によって自学自習の態度を育成するとともに、基礎学力を向上させる。</p> <p>④ 校長による「授業参観」で生徒の実態把握と授業者への指導助言を行い、授業研究・授業改善の雰囲気醸成する。</p>
生徒指導	<p>① 職員の「生徒一人一人を大切にしている」の評価は高く、誇りを持って指導していると感じる。保護者、生徒とも概ね「大切にされている」と実感しているようで、これは強みである。</p> <p>① 職員の「生徒一人一人を大切にしている」の評価は、割合的には高いものの、前年比で評価は下がっている。職員は減っても仕事量が変わらない中で、生徒一人一人にかかわる時間が減ってきたのではないかと考えられる。</p> <p>○ 地域から見ても、服装や態度、ルールで規律正しい学校生活をができていているという評価が、生徒、保護者、教員とも高いのはとても良いと感じている。</p> <p>○ 生徒の大多数が素直であり、服装や入室カードのような生徒指導に主を置かなくてもよい学校になってきたことは評価したい。</p>	<p>○ 地域からの好評価に気を緩めることなく、引き続き、生徒指導に重点を置くことを本校の第一の特色として、「全職員の共通理解のもとでの生徒一人ひとりを大切にするきめ細かな生活指導」「家庭との緊密な連携と、教育相談機能を活かした<b>生徒理解</b>」「特別支援の観点踏まえた、生徒個々の実態に合った適切な指導」「学年室体制の充実」「一斉指導や各種カード指導」「登校観察」「遅刻・欠席・早退の実態把握と家庭連絡等管理の徹底」等の取り組みを継続する。</p>
キャリア教育	<p>②③④ 企業訪問をはじめ、<b>外部講師による進路ガイダンス</b>や<b>個別相談</b>に関して、OB会（同窓会）を活用した就職相談やキャリア支援があってもよいのではないか。</p> <p>①③ 卒業後は難しいかもしれないが、就職後の定着についての支援もキャリア教育に位置づけてはどうか。</p>	<p>① 学年と進路指導部が協働し、生徒一人ひとりの能力・適性、興味関心や進路希望に応じたきめ細かな進路指導とキャリア教育を、3年間を見通し計画的・継続的に実践する。</p> <p>② 質、量ともに進路ガイダンスをより充実させ、引き続き、<b>外部講師によるガイダンス</b>等の効果的な方策を工夫、検討し、生徒の健全な職業観・勤労観を育成することとする。</p> <p>③ 情報収集や進路先確保のための企業訪問を継続する。</p> <p>④ 「一人一人を大切に、きめ細かな指導」を具現化するものとして、進路<b>個別相談</b>の充実を位置づける。</p>
特別活動	<p>① 生徒アンケートで行事への満足度が下がったのは、生徒の期待値が上がったことと、容易に他校と比較することが多くなったためではないか。</p> <p>① これ以上行事が増えては、先生も生徒も忙しすぎるのではないか。</p> <p>①③ 生徒会を中心にして、生徒主導型の行事にシフトしていくことは良いと思う。</p> <p>③ 生徒会の生徒から、学校の魅力を発信するようなこともできたらよいのではないか。</p>	<p>① 引き続き、生徒が自ら積極的に学校行事に関わろうとする態度を育成し、生徒主体の学校行事をより活性化させる。</p> <p>② 運動部だけでなく、文化部も含めて、活動内容や成果を積極的に広報して、部活動の活性化を支援する。</p> <p>③ 生徒の努力の成果を認め、達成感を与え、自信を持たせる支援と指導を行うことを通じて、ボランティア活動の定着化も図っていく。</p>